

ニホンウナギの回帰を目指した 震災湿地の順応的管理

活動地域  宮城県気仙沼市

ひろげる助成

3年目

実践

生物調査回数 **6回**

環境教育の
受け入れ人数 **871人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



西舞根川と塩性湿地を仕切る護岸の開削工事

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

同時並行で3事業を動かす必要があるが、スタッフ数が限られているので対応に苦勞した。事業が目目されるにつれ、取材・視察・体験学習の申し入れが増えて大変であった。

■ 工夫した点

環境教育事務局と環境調査事務局を設置した。また、環境調査の成果を環境教育に反映し、さらに両者の成果を組み合わせることで世間に情報発信して、効率的に成果の浸透を図った。

課題

日本の沿岸域では森と海を行き来するニホンウナギ等の魚類が激減しており、津波防潮堤や河川護岸の整備が環境の劣化に拍車をかけているため、生物の往来を復活させたい。

目標

津波で破壊された気仙沼市舞根地区において、民・学・官の協働により塩性湿地を再生し、ニホンウナギの生息環境を作り出す。このモデルケースを全国に発信する。

活動内容と成果

- 生物環境調査を年6回実施し、河口と塩性湿地における生物相の違いを明らかにした。また、導水による塩分の変動状況を明らかにした
- 体験学習で871人を受け入れ、全国各地で講演会を30回行い、出前授業を2,300人に行った。ニホンウナギ回復のためには汽水域環境の再生が重要という認識を広めた
- 2019年3月に東舞根川と湿地をつなぐ工事が、2019年9月に西舞根川の河川護岸の開削が行われ、川と海の結節点としての塩性湿地を再生できた
- 気仙沼高校、一関工業高専と環境調査に関して連携した



湿地の底質採取および塩分モニタリング

全助成期間の活動を振り返って

森と海をつなぐ汽水域の創出の鍵となるのが、河川護岸を開削して塩性湿地を再生することであった。ただし、護岸撤去は洪水氾濫を許容するため、行政的には不可能に近い構想であった。本プロジェクトでは、市内外の小中高生、教育委員会、地元住民、市民ボランティア、研究者など、多様な主体と協働して、事業意義を多角的に発信し続けた。さらに、市役所及び県・国に成果を示して働きかけることで、事業認可に至った。



9月に実施された西舞根川左岸の開削工事

〒988-0527
宮城県気仙沼市唐桑町西舞根133-1
電話：0226-31-2751
E-mail：info@mori-umi.org
HP：http://www.mori-umi.org/



今後の 展望

事業評価はウナギを指標としていたが、プロジェクト最終年に河川工事が実施されたため、ウナギ調査ができなかった。今後、調査を継続してウナギ回遊数を把握し、塩分と生態系の応答を解析することで、湿地の順応的管理手法を提案する。さらに、西舞根川上流の森づくり(間伐、広葉樹林化、散策道整備など)にも着手し、流域圏を一体的に捉えたまちづくりを行いつつ、地方集落のモデルケースとして世間に情報発信してゆく。